

目的

- ◆ 急速にグローバル化が加速する現状を踏まえ、社会課題に対する関心と深い教養、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身に付け、将来、国際的に活躍できるグローバル・リーダーを高等学校段階から育成する。

事業概要

- ◆ 国際化を進める国内の大学のほか、企業、国際機関等と連携して、グローバルな社会課題を発見・解決し、様々な国際舞台で活躍できる人材の育成に取り組む高等学校等を「スーパーグローバルハイスクール」に指定し、質の高いカリキュラムを開発・実践する。

- ◆ 委託事業：委託先（都道府県市教育委員会、国立大学法人、学校法人）
- ◆ 対象学校：国公私立高等学校及び中高一貫教育校（中等教育学校、併設型及び連携型中学校・高等学校）
- ◆ 指定期間：原則5年間
- ◆ 指定校数：継続校67校（2015年度指定56校、2016年度指定11校：国8校・公39校・私20校）

取組

- ✓ 英語等によるディスカッション、プレゼンテーション、論文作成、探究型学習、成果発表会等の実施
- ✓ 企業や海外の高校・大学等と連携した国内外研修
- ✓ 英語等で指導する帰国・外国人教員等の派遣や、外国人留学生による英語等によるサポート



実施体制



- ・国内外の大学
- ・企業
- ・国際機関 (OECD, UNESCO等)
- ・非営利団体等

◆ 人材やプログラムの提供

- ✓ 探究学習の指導方法
- ✓ アクティブラーニング
- ✓ 国際理解教育
- ✓ 海外研修ノウハウ
- ✓ 海外姉妹校締結ノウハウ 等

◆ 他の高等学校や小・中高校へ成果を普及

委託

管理機関 (教育委員会等)

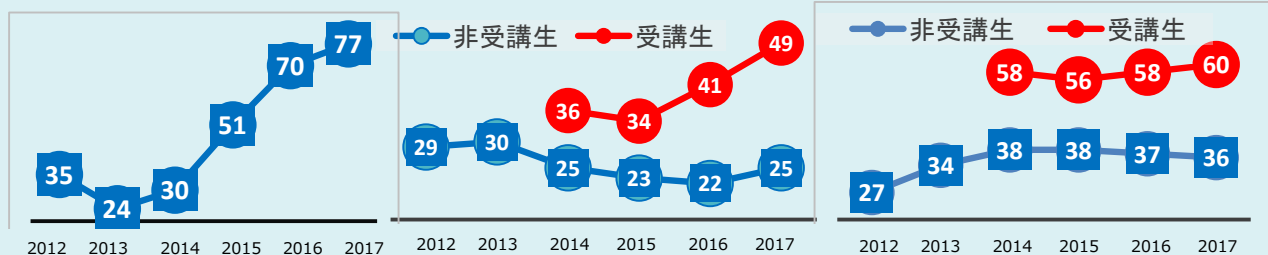
- ・学校の指定 (5年間)
- ・指導
- ・助言
- ・評価
- ・支援

文部科学省

成果

- ①減少傾向にあった「課題研究に関する国外研修参加者数」は、SGHが開始された2014年度から着実に増加している。
- ②「SGH受講生の卒業時のCEFR B1～B2レベル」（英検2級～準1級程度）は、SGH開始時から13ポイント向上し、非受講生との差異は、11ポイントから24ポイントへと2倍以上に拡大している。
- ③「将来留学や国際キャリアをめざす生徒の比率」について、SGH受講生は6割に達する（「日本企業の新入社員の海外赴任希望者の4割*（2017）」を反転する高比率）のに対し、非受講生は、4割弱でありグローバル化に逆行した漸減傾向がみられる。

* 学校法人産業能率大学（東京都世田谷区）による「第7回新入社員のグローバル意識調査」<http://www.sanno.ac.jp/research/global2017.html>



①課題研究に関する国外研修参加平均人数 ②卒業時生徒のCEFR B1～B2レベル比率 (%) ③将来留学・国際キャリアをめざす比率 (%)

出所：SGH事業検証に関する有識者会議中間まとめ（2018年7月25日）より

◆ グローバルな社会課題を発見・解決し、様々な国際舞台で活躍できる人材（国際機関職員、社会起業家、グローバル企業の経営者、政治家、研究者等）の輩出